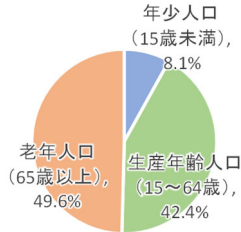


居組 (いぐみ)

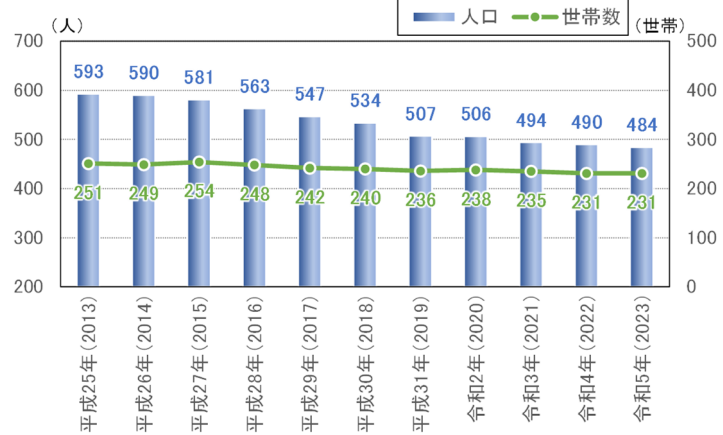
人口・世帯数等 (令和5年4月)

人口	484人
世帯数	231世帯
高齢化率	49.6%

年齢別人口割合



人口・世帯数の推移 (過去10年間)



区域の概要

立地 集落の中を結川が北西し、居組港へ注ぐ。漁業中心の地域で水産加工場が立地する。結川下流にわずかに田畑が開ける。

地名由来 『ひょうごの地名』(吉田茂樹著)には、『大田文』では「伊含浦」とあり、「入隈」の約音化で、湾曲した湾の奥の意になるとある。

歴史等 かつて谷の奥(居組駅付近)の伊組谷にあった集落が海岸周辺に移ってきたとされ、宮の跡が残っている。天正15年(1587)秀吉の命で細川幽斎が九州に渡航の際に寄港し、海岸の風光を賞観して和歌を詠じて、港を結が浦と命名したという(『美方郡誌』)。近世の居組村は、豊臣政権下では太閤蔵入地(豊臣氏の直轄地)で、江戸時代には、慶長10年(1605)因幡国若桜藩と旗本宮城氏の相給、元和3年(1617)旗本宮城氏知行、正保元年(1645)幕府領、寛文8年(1668)豊岡藩領、享保12年(1727)からは幕府領となった。家数は宝暦10年(1760)110、嘉永元年(1848)168。天保5年(1834)の『但馬国郷帳』(天保郷帳)の村高は106石余。文化年間(1804~1818)から明治期にかけて廻漕業で栄えた。龍雲寺の本堂は、鳥取藩主池田家の菩提寺を移築したもので、因幡地方との関係が深い。

明治22年(1889)西浜村の大字となり、昭和29年(1954)からは浜坂町の大字となる。明治24年(1891)の戸数263、人口は男542・女579。

これまで把握している文化財

文化財の件数 83件 (うち指定等文化財 9件)

大分類	中分類	小分類	把握件数	指定等
有形文化財	建造物	建築物	2	1
		石造物	0	0
		工作物・その他の構造物	7	0
	美術工芸品	彫刻	2	1
		絵画	0	0
		工芸品	10	1
		書跡・典籍	0	0
無形文化財		古文書・歴史資料・考古資料	4	0
		音楽	4	0
		演劇	1	0
		工芸技術	0	0
		その他の無形文化財	1	0
		信仰の場	8	0
民俗文化財	有形の民俗文化財	祭具	1	0
		民具	0	0
		その他の有形の民俗文化財	0	0
	無形の民俗文化財	年中行事・民俗芸能	4	2
		民俗技術	0	0
		食文化	0	0
		民間話話・俗信	10	0
記念物	遺跡	その他の無形の民俗文化財	0	0
		散布地・集落跡・生産遺跡	3	0
		古墳・その他の墓	0	0
		城館跡・寺社跡	3	0
		街道・古道等	4	0
		戦争遺跡	1	0
	その他の遺跡	5	0	
	名勝地	山岳・高原・丘陵	0	0
		海岸・海浜・島嶼	2	0
		河川・滝・渓谷・湖沼	0	0
		公園・庭園	0	0
		その他の名勝地	0	0
	動物・植物・地質鉱物	動物	0	0
植物		3	2	
文化的景観	地質鉱物	6	2	
	生活・生業・風土により形成された景観地	1	0	
伝統的建造物群	宿場町・城下町・農漁村等	1	0	



居組龍雲寺本堂



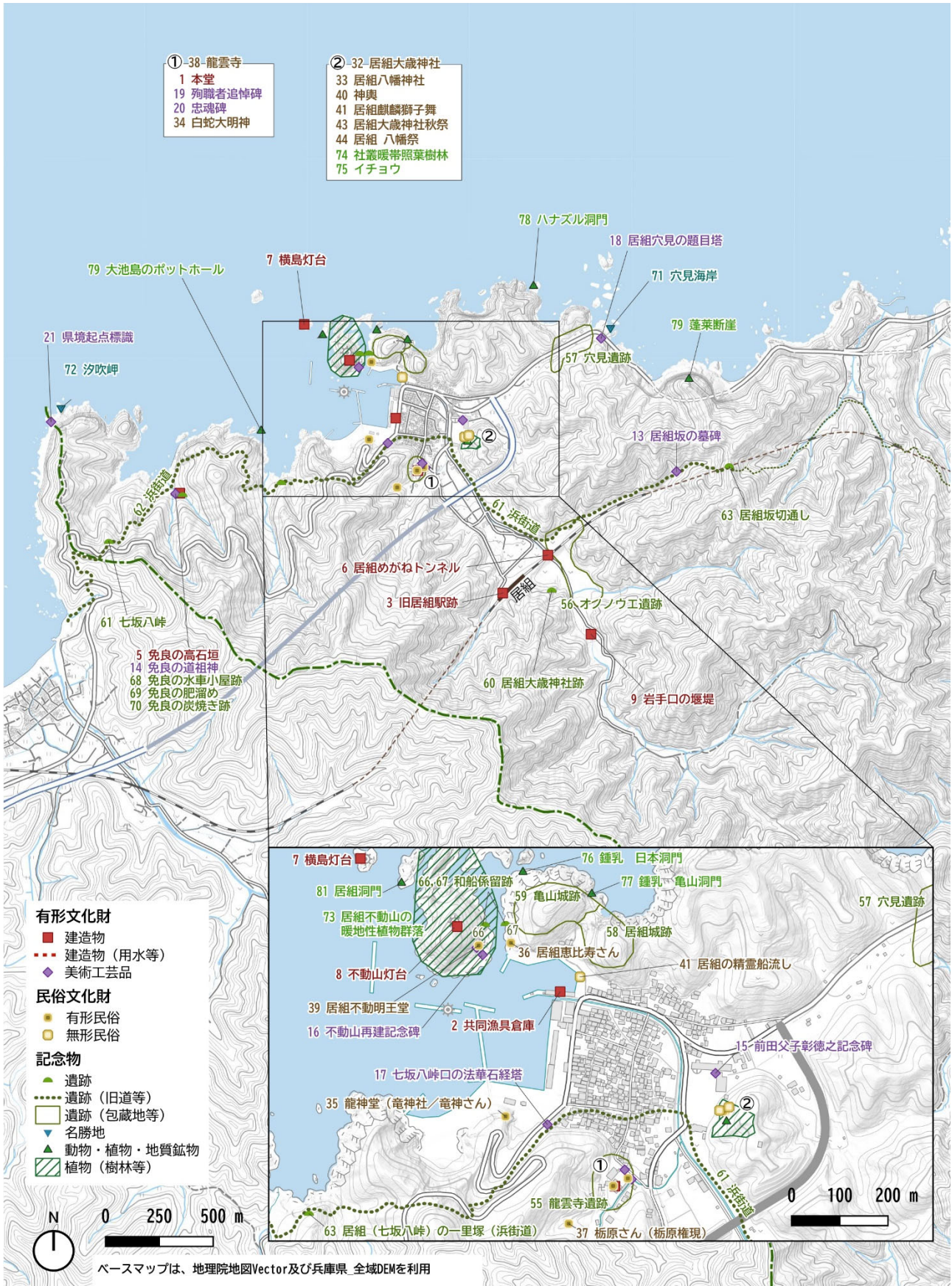
居組麒麟獅子舞



居組の精霊船流し

※人口・世帯数は住民基本台帳(令和5年4月現在)による。

文化財の分布



※所在地の掲載可能なものに限る

3-04 居組

文化財の一覧

■ 有形文化財／建造物

分類	番号	名称	概要
建築物	1	居組龍雲寺本堂	龍雲寺本堂は、寛政12年(1800)と明治12年(1879)の2度焼失しており、現在の本堂は文化11年(1814)に鳥取藩主池田家の菩提寺として再建された興禅寺本堂(鳥取市栗谷、前身は龍峰寺)を明治21年(1888)に移築したものである。そのため、本堂両妻の懸魚には鳥取藩主池田家と姻戚関係にあった徳川家の家紋「三つ葉葵」や蛙股には池田家の家紋「揚羽蝶」が彫刻されている。また、以前屋根にあげられていた「揚羽蝶」の入った鬼瓦なども残されている。本堂の柱や用材には、当時銘木として家具や床材に用いられた「みずめ桜」が使用されている。新温泉町内において江戸時代の寺院建築様式を伝える数少ない寺院であり、但馬(新温泉町)と因幡(鳥取県)との文化交流を知ることができる建造物である。 町指定文化財
	2	共同漁具倉庫	昭和37年(1962)11月竣工。木造瓦葺2階建、延74坪。2階10室、1階9室に仕切る。
工作物・ その他の 構造物	3	旧居組駅跡	明治44年(1911)に開設された(現在は改築コンクリート製)。構内には明治40年(1907)製の線路も敷設されている。旧港のドック(船の上架修理施設)に、昭和2年(1927)の刻印(ウィンドル社製)の線路が敷設されている。
	4	居組の煉瓦塀	明治45年(1912)の山陰本線のトンネル完成後、残った煉瓦を使用したと思われる塀が集落内に残る。釜屋三柱神社の煉瓦塀の意匠と似ている。
	5	免良の高石垣	メラ(免良)の浜街道沿いに位置する高石垣。メラ湾は・水メラ・浜メラ・沖メラに分かれ、正面に与兵衛落しの断崖、右手にメラの大島がある。左手は汐吹岬で鳥取県境である。この他、道祖神、肥溜め、水車小屋跡などがあり、かつては国境の重要場所であったと思われる。
	6	居組めがねトンネル	明治44年(1911)に建設されたトンネル。居組駅の東側のJR山陰本線の築堤下に築かれたためめがね状のトンネルであり、一方は道路、一方は河川(結川)が通る。コンクリート造で、坑口には輪石や要石は見られないが、柱脚は切石で補強されている。
	7	横島灯台	昭和29年(1954)10月16日初点灯。白色、円形、コンクリート造。高さは地上9.61m、光度は2,000カンデラ、11.5マイル。レンズは300mm不動。常時波浪の高い離島であり、ガス交換や故障修理に難渋したため、昭和32年(1957)より電化工事が行われた。
	8	不動山灯台	昭和40年(1965)12月8日初点灯。白色、円形、コンクリート造。高さは地上頂部9.96m、水上64.5m、光度は8,500カンデラ、20.5マイル。レンズは300mm不動。漁業の遠隔化、漁船の大型化に伴い、灯台の到達距離の延長が必要となって建設されたもの。
	9	岩手口の堰堤	大正7年(1918)の大水害後、小さな出水でも堆積土砂がおびただしく、それを防止するため、字マワン谷に小堰堤を築造した。しかし、小規模のため効果が少なく、数年にわたり大堰堤構築を要望し、昭和30年(1955)3月ようやく認められ、わが国砂防界権威・赤木正雄指導のもとに延長66m、高さ5.6mの堰堤が完成した。その後、数次にわたる出水にその効果が実証された。

■ 有形文化財／美術工芸品

分類	番号	名称	概要
彫刻	10	木造不動明王像	居組不動山には不動堂があり、室町時代中期の作と思われる高さ 78cm の寄木造りの不動明王像が安置されている。海から上げられたと伝わり、別名「波切不動」と呼ばれ、毎年 4 月 21 日に祭礼が行われる。かつては、古来居組の檀家寺であった天台宗の古刹吉祥院にあったが、龍雲寺開山の後、檀家を龍雲寺に移し、不動尊は現位置（不動山）に安置した。 町指定文化財
	11	龍雲寺の阿弥陀如来像	江戸期の木造阿弥陀如来像。
工芸品	12	船名額	船名額は、和船の帆柱の後方にある神棚に掲げ、船の守護神として祀られていたもので、額の大きさでその船の大きさが分かると言われている。浜坂地域には、船名額が 4 基残されており、江戸時代末～明治の初めにかけて栄えた浜坂の廻漕業を知る貴重な資料である。指定文化財以外に個人蔵の船名額が残る。 町指定文化財
	13	居組坂の墓碑 (1772 年建立)	高さ 50cm 程の小さな墓碑。中央に戒名「眞元道中信士」、左右に年月日が刻まれており、右に「明和九壬辰 (1772)」、左に「五月二十一日」とある。左側面に「施捨之人當村〇〇」とあるも以下判読不能。居組の龍雲寺過去帳によると、「安永元年壬辰 (1772) 五月二十一日」越前人孫治が居組坂で倒れ、当時の居組村庄屋鳥羽又兵衛が亡くなった旅人孫治を弔うため建立したとある。墓には居組坂の道標の役割もあったと思われる。
	14	免良の道祖神	メラ（免良）の浜街道沿いに位置する道祖神の祠。メラ湾は・水メラ・浜メラ・沖メラに分かれ、正面に与兵衛落しの断崖、右手にメラの大島がある。左手は汐吹岬で鳥取県境である。この他、水車小屋跡、肥溜め、高石垣などがあり、かつては国境の重要場所であったと思われる。
	15	前田父子彰徳之記念碑 (1918 年建立)	大正 7 年 (1918) 12 月 17 日建立。自然石。高さ 2m。前田利助・利一父子の顕彰碑。利助は函館に移住し、子の利一が函館商船 (株) を設立。利一の篤志で居組小学校校舎などが建てられた。顕彰碑は、当初は神社鳥居横に建立されたが、現在は防災公園内に移転されている。
	16	不動山再建記念碑 (1936 年建立)	吉野多蔵氏が船で各地を廻り、四国八十八所のご利益を居組の地で求められたらと平井和太郎氏に相談。不動山中に参詣道を作り、石仏 (14 種 88 体、ただし参道崩落等により数体所在不明) の建立を信徒に協力を願い、霊場開発した。昭和 11 年 (1936) 8 月建立。132×50～75×30 cm。
	17	七坂八峠口の法華石経塔 (1788 年建立)	浜街道の七坂八峠の登り口に建つ。正面に「天明八年戊申 (1788) 八月二十一日」、中央に「法華石経塔」、台石には「専冀 (もっぱら こいねがう)」で始まり、戒名等が刻まれている。元は峠口の松の大木の下にあったが、道路拡張の際に現在地に移設された。峠の通行安全を祈願したものである。閃緑岩の自然石型。高さ 120cm。
	18	居組穴見の題目塔 (明治期建立)	剥離により建立年は不明であるが、釜屋・居組間の海岸線の newly 竣工記念碑であることから、明治 20 年代の建立と思われる。玄武岩質安山岩の自然石型。高さ 135cm。主碑銘は「南無妙法蓮華経天照皇太神正八幡宮」。
	19	龍雲寺の殉職者追悼碑 (1911 年建立)	居組において鉄道工事中の土砂崩れなどで死亡した犠牲者の追悼碑。主碑銘は「鉄道工事遭難病没追悼碑」、明治 44 年 (1911) 3 月建立。安山岩の自然石型。高さ 180cm。
	20	龍雲寺の忠魂碑 (1960 年建立)	昭和 35 年 (1960) 建立。龍雲寺入口に日清・日露・大東亜戦争で亡くなった戦没者の霊を慰めるために建てられた忠魂碑。居組地区遺族会が建てたもので、居組・釜屋から出征して亡くなった方の名前 (日清戦争 1 名、日露戦争 2 名、大東亜戦争 56 名) が刻まれている。

3-04 居組

分類	番号	名称	概要
工芸品	21	県境起点標識 (1966年建立)	居組では明治以降、沖合底曳網漁業が目覚ましく発展し、隣の鳥取県岩美郡田後村との沖合における境界争いが年々激しくなった。このため、兵庫・鳥取両県の漁業秩序を維持し、県境の起点を設定するために昭和38年(1963)、居組漁業協同組合と鳥取県東漁業協同組合との間に漁業区域に関する覚書が締結され、昭和41年(1966)7月26日、両県関係者の立会いの上、この県境起点標識が設置された。アジ石、77×24.5×25cm。
古文書・ 歴史資料・ 考古資料	22	油屋事岩崎家文書	江戸時代末から明治時代を中心とした岩崎家の文書。廻船の取引に関するものが多い。合計379点。追加目録であり、この他にも同家文書がある。
	23	嶋屋文書	江戸時代の宝永4年(1707)海論裁許状他、居組村文書。
	24	西垣千代造文書	延宝6年(1678)居組村酒造関係他文書。
	25	船往来手形	個人蔵。天保3年(1832)3月の船往来宗門手形之事(久兵衛船)、元治2年(1865)2月の船往来宗門一札之事(久兵衛船)、慶応4年(1868)3月の船往来一札之事(久兵衛船)、明治2年(1869)3月の船往来宗門寺請手形之事(油屋為助船)、明治3年(1870)4月の船往来宗門手形之事(幸右衛門船)などが残る。

■ 無形文化財

分類	番号	名称	概要
音楽	26	居組の盆踊り唄 (佐倉宗五郎)	※『但馬二方の民間芸能』(昭和56年、大森恵子著、但馬民俗芸能研究会・浜坂町教育委員会発行) p134 参照
	27	居組の仕事唄 (キコリ唄)	※『但馬二方の民間芸能』(昭和56年)、大森恵子著、但馬民俗芸能研究会・浜坂町教育委員会発行) p151、『兵庫の仕事うた』(昭和56年・神戸出版センター発行) p61、長谷坂栄治採譜・CD版 p145~147 参照
	28	居組の盆踊り唄 (数え唄)	※『ふるさとの唄(平成元年度版)』(平成2年、浜坂町公民館発行) p25 参照 歌詞は「菅原伝授手習鑑」の一節で「寺子屋」。同歌譜で『仮名手本忠臣蔵』・『巡礼お鶴』等が歌われる。ただし、清富地区の歌詞等に若干の相違がある。
	29	居組音頭	※『景勝地 居組の探訪』、『小学校百年史』参照 『小学校百年史』に採譜あり。
演劇	30	居組芝居芸能	川下祭りを盛り上げるため、初日の宵宮に京口2丁目(京二)屋台が出て、演芸(居組芝居芸能一座)を6ヵ所で披露していた。屋台の組み立てを数日前に、約2時間かけて京二屋台保存会会員が行った。
その他の 無形文化財	31	漁業(松葉ガニ、ホタルイカなど)	町内には浜坂港、諸寄港、釜屋港、居組港、三尾港(大三尾・小三尾)の漁港がある。新温泉町での代表的な漁法は「沖合底引き網漁」で、9月から翌年5月末まで漁を行い、松葉ガニやホタルイカ、ハタハタ、エビ、カレイなどが水揚げされる。

■ 民俗文化財／有形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
信仰の場	32	居組大歳神社	祭神の素戔鳴命は、アナミ灘に上げられた神と伝わる。貞観3年(861)の創建と伝えられており、「延喜式」神名帳に見られる。古くは、伊含谷近くの小高い所に鎮座していたと伝え、永享2年(1430)に現在地に再建されたことが棟札から確認できる。毎年10月9日の例祭日には、家内安全・無病息災を願って麒麟獅子舞が奉納される。近代社格は県社。
	33	居組八幡神社 (正八幡社)	近代社格は無格社。もとは字往還に鎮座していたが、大歳神社境内に移された。

分類	番号	名称	概要
信仰の場	34	白蛇大明神	JR 居組駅大坂トンネルの上に小さなダムがあり、すぐ下に小さな祠がある。駅に勤務する人の奥さんがこの場所で白い蛇を見つけ、その夜、夢枕で「私を祀れば村は栄え、村人は幸せになる」とお告げがあったため、祠を造り、白い旗を立ててお祀りしたという。現在その祠は見当たらないが、祠が新しく建立され、寺の境内に置かれている。祭神は白蛇大明神と呼ぶ。
	35	龍神堂 (竜神社／竜神さん)	魚見台公園の先端に位置する。祭神の龍神(八大龍王)は居組の漁師から守護神として信仰され、「竜ごんさん」とも呼ばれる。毎年11月10日に例祭が行われる。
	36	居組恵比寿さん	大国主命の弟事代主命(通称恵比寿さん)を祀る。恵比寿さんは漁業の神で、昔はお不動さんと併せて祀っていたが、ご神体が行方不明となった。漁業者が沖で最初の釣りを下す時は、今でも「お恵比寿さん」と唱えて守護を祈るという。
	37	栃原さん (栃原権現)	居組の南方に高くそびえる大山(おやま)の頂上近くに鎮座する無畏観世音菩薩。日本海を航行する各種の船が航海安全を祈り、その灯明を目標にして帆を三分下げて遙かに礼拝した。それを怠ると忽ち船脚が重くなるという伝説がある。帆船でなくなった後も、港の出入りには栃原さんに一礼する漁師もいた。
	38	居組不動明王堂	町指定文化財の木造不動明王像が安置されている堂。
	39	龍雲寺	山号は虎嶽山。慶長元年(1596)、竹翁良虎和尚を勧請開山とする。曹洞宗永平寺派に属す。近世、徳川幕府は政治体制強化のために僧侶に権威をもたせ、寺院は葬儀や法要などの仏事のほか、宗門改めの加判、寺請証文、宗門手形の作成など重要な戸籍事務を執行しており、龍雲寺発行の船往來宗門手形が多く残され、海に活躍した先人の偉業をしのぼせる。明治12年(1879)12月12日の大火で、本堂、庫裏、薬師堂を焼失したため、鳥取市栗谷にあった鳥取藩主池田侯の菩提寺、竜峰寺を買い取り、移転・再建した。落成は明治21年(1888)。元鳥取池田家菩提寺。揚げ羽紋・三つ葉葵紋の家紋がある。
祭具	40	居組大歳神社の神輿	毎年10月9日の大歳神社例祭の際に使われる明治～昭和初期の神輿。

■ 民俗文化財／無形の民俗文化財

分類	番号	名称	概要
年中行事・ 民俗芸能	4138	居組麒麟獅子舞	10月9日の大歳神社祭礼で奉納される。二人立ち獅子舞で、起源は江戸中期といわれる。舞には、初舞(門付)、中舞(中廻し)、本舞(宮出宮入)がある。居組麒麟獅子保存会により伝承されている。 国指定重要無形民俗文化財(「因幡・但馬の麒麟獅子舞」として)
	42	居組の精霊船流し	8月16日に居組漁港で行われる。起源は不明。江戸時代から行われてきたとの伝承がある。現在は居組龍雲寺護持会が主体となって実施される。精霊流しは、日本海沿岸から九州にみられる盆行事で、多くが廃絶したり灯籠流しに形態を変化させるなかで、船流しを継承する。居組では、一つの精霊船(おがら舟)をにぎやかに飾り付けて港から精霊を送り出す。 県登録無形民俗文化財
	43	居組大歳神社秋祭	10月9日に行われる。大歳神社前で麒麟獅子舞を奉納した後、榊、神輿、子ども神輿が、家内安全、無病息災、五穀豊穡を願って村中を練り歩く。
	44	居組 八幡祭	5月5日(こどもの日)に行われる。子どもの健やかな成長、無病息災、家内安全を願い、親子で八幡神社を参拝する。
民間説話・ 俗信	45	ばばあおとし／姥捨伝説	※『はまさかの民話(Ⅰ)』(平成元年、浜坂町公民館発行) p34 参照 ※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』(昭和49年、兵庫県教育委員会発行) p154 参照 ※『但馬・温泉町の民話と伝説』(昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行) p131 参照

3-04 居組

分類	番号	名称	概要
民間説話・俗信	4639	ムギとソバ	※『はまさかの民話（Ⅰ）』（平成元年、浜坂町公民館発行）p32 参照 ※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p163 参照
	47	おぼ落とし	※『はまさかの民話（Ⅰ）』（平成元年、浜坂町公民館発行）p33 参照
	48	佐治谷もんのあだ討ち	※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p175 参照
	49	だらずの下駄売り	※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p175 参照
	50	塩辛より水	※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p179 参照
	51	サザエの食い方	※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p179 参照
	52	あほうにつける薬がない	※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p180 参照
	53	佐治谷のだらず	※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p181 参照
	54	土のこ (つち/つちぐちなわ)	※『但馬海岸 但馬海岸地区民俗資料緊急調査報告書』（昭和49年、兵庫県教育委員会発行）p199 参照 ※『但馬・温泉町の民話と伝説』（昭和59年、喜尚晃子編纂、手鞠文庫発行）p89 参照

■ 記念物／遺跡

分類	番号	名称	概要
散布地・集落跡・生産遺跡等	55	龍雲寺遺跡	弥生～古墳時代の散布地。土器片数点が散布。
	56	オノノウエ遺跡	奈良～平安時代の散布地。須恵器片が数点散布。
	57	穴見遺跡	平安時代の散布地。土師器・須恵器片が数点散布。
城館跡・寺社跡	58	居組城跡	中世～近世の城館跡。石垣を伴う郭跡。亀山城跡と酷似し、主郭を何重にも狭い帯曲輪が取り巻く縄張り。亀山城の支城と考えられる。両城は相連携して居組港や居組集落を守備する役割を担っていたと考えられる。城主は不明であるが、『但馬国にしかた日記』（弘治3年（1557））には、「つなかけいくミ（綱掛け居組）」に7名の地侍・名主層の名が見られ、地侍・名主連合の城郭と考えられる。
	59	亀山城跡	中世～近世の城館跡。居組城と同様に帯曲輪が何重にも取り巻く構造。亀山城の西側には「綱掛場」と称される入江があり、そこを含む居組港全体を守備する本城として築城されたと考えられる。城主は不明であるが、『但馬国にしかた日記』（弘治3年（1557））には、「つなかけいくミ（綱掛け居組）」に7名の地侍・名主層の名が見られ、地侍・名主連合の城郭と考えられる。
	60	居組大歳神社跡	居組大歳神社は、古くはオノノウエ遺跡の西の高台に鎮座していたとされる。現在地に移転・再建されたのは、棟札により永享2年（1430）と確認されている。
街道・古道等	61	七坂八峠	浜街道の峠。「七曲八峠」とも言われ、「牛馬不通」とされた但馬因幡国境の難所。途中に切通しが8ヶ所、所々に石敷きの峠道の跡が残る。

分類	番号	名称	概要
街道・古道等	62	浜街道	歴史的には「因幡道」「湯島道」とも呼ばれ、豊岡から鳥取間を結ぶ。江戸時代の浜街道を「古道」、明治時代の浜街道を「旧道」と呼ぶ。ルートはほぼ現在の国道178号に沿い、道幅は街中で約2間、平地は1間、山中では約半町であった。浜坂村・森秀助の『出雲紀行』や但馬国美含郡轟村・細田方斎の『因幡行日記』などの紀行文、伊能忠敬測量日記（第5次）などに浜街道が使われた記録が残る。久美浜代官が領内巡検のために浜街道を使ったことや、庶民も浜街道を使って往来していたことも知られる。
	63	居組坂切通し	居組トンネル東口左横から山をジグザグに登る浜街道の古道を居組坂と呼ぶ。トンネル真上の切通しから居組駅が眼下に見える。非常に急峻な坂で、峠と言っても良い。
	64	居組（七坂八峠）の一里塚	正保期・天保期の但馬国絵図や元禄期の因幡国絵図、寛政7年（1795）の『因幡志』などに一里塚の記述がみられ、これらから字水谷から字筒井付近に位置したと思われる。
戦争遺跡	65	居組村東山台場	天保13年（1843）以降に久美浜代官所が設置したと思われるが、遺構は不明である。
その他の遺跡	66	和船係留跡 （居組港：不動岩側）	不動岩と亀山に挟まれた「綱掛」と呼ばれる一帯、幅約40m、長さ約200m足らずの水道風の水路の両岸に、150mにわたって繫留施設が点在する。不動岩側には計23個ある。棒杭（石杭）船繋ぎ施設11個、もやい岩船繋ぎ施設8個、めぐり船繋ぎ4個。綱掛にはかつてつり橋がかかっていた。
	67	和船係留跡 （居組港：亀山側）	不動岩と亀山に挟まれた「綱掛」と呼ばれる一帯、幅約40m、長さ約200m足らずの水道風の水路の両岸に、150mにわたって繫留施設が点在する。亀山側には計18個ある。棒杭（石杭）船繋ぎ施設11個、もやい岩船繋ぎ施設1個、めぐり船繋ぎ6個。綱掛にはかつてつり橋がかかっていた。
	68	免良の水車小屋跡	メラ（免良）の浜街道沿いに位置する水車小屋跡。メラ湾は・水メラ・浜メラ・沖メラに分かれ、正面に与兵衛落しの断崖、右手にメラの大島がある。左手は汐吹岬で鳥取県境である。この他、道祖神、肥溜め、高石垣などがあり、かつては国境の重要場所であったと思われる。
	69	免良の肥溜め	メラ（免良）の浜街道沿いに位置する肥溜め。メラ湾は・水メラ・浜メラ・沖メラに分かれ、正面に与兵衛落しの断崖、右手にメラの大島がある。左手は汐吹岬で鳥取県境である。この他、道祖神、水車小屋跡、高石垣などがあり、かつては国境の重要場所であったと思われる。
	70	免良の炭焼き跡	メラ（免良）の谷奥に位置する炭焼き跡。

■ 記念物／名勝地

分類	番号	名称	概要
海・海岸・島嶼	71	穴見海岸	居組から釜屋に向かう途中ある代表的なリアス式海岸で、沖に白島、赤島、めおと島などの大小の岩礁が散在し、東方に海金剛を望む景勝地。穴見海岸の沖に見える白島は角礫の少ない火山岩でできており、周辺にある黒岩とは対照的な、白く突き立った大岩である。このあたりは水深が浅く、磯突き漁などが行われている。沖合では平成3年（1991）7月に、珍しい深海魚「リュウグウノツカイ」の泳ぐ姿が撮影されている。
	72	汐吹岬	江戸時代には「火吹崎」と呼ばれていた。現在は展望台が造られており、東は丹後から西は鳥取県の長尾鼻あたりまで望むことができる。

3-04 居組

■ 記念物／動物・植物・地質鉱物

分類	番号	名称	概要
植物	73	居組不動山の暖地性植物群落	居組不動山は、居組港の北西にある東西 200m、南北 22m、標高 60mの島で、島全体には 65 科 177 種以上の植物が自生している。主な植物としては、シイの古木を中心にタブの木、ヤブニッケイ、ツバキなど、自然のままの状態に残されている貴重な植物群落である。 県指定天然記念物
	74	大歳神社社叢暖帯照葉樹林	居組大歳神社社殿を覆う森には、シイ・ツバキ・タブの古木を中心に、ケヤキ・ヤブニッケイ・モチの木・ヤマザクラ・ヒメユズリハ・フジヅル・エビヅル・ムベ・センダンの木・ハマウド・ヤブレガサなどが自生している。 町指定文化財
	75	居組大歳神社のイチョウ	本殿の左側境内にある。高さ 26m、胸高直径 101cm のイチョウ。
地質鉱物	76	鍾乳 日本洞門	洞門・洞穴は、断層や節理の地層の弱線が海水などに浸食されてできたもので、洞門・洞穴の多さが浜坂海岸の特色である。 日本洞門は、第三紀層の玄武岩質安山岩にできた幅 7~8m、奥行き 82m の細長い洞穴で、岩石中の石灰分が浸み込んだ水分で溶解されてできた小さな鍾乳石や石灰被膜が見られる。ツバクロ洞門とも呼ばれる。
	77	鍾乳 亀山洞門	亀山洞門は日本洞門の東隣にある間口 16m、高さ 9m、入り口がやや円形の洞門である。この洞窟は奥行き 28m、水深は 3m と浅く、内部はやや広い。荒天時に洞内から噴き出す白く泡立った荒波の様子が魚の潮を吹く様子を思わせることから潮吹き洞門とも呼ばれる。 県指定天然記念物（「鍾乳 日本洞門 鍾乳 亀山洞門」として）
	78	ハナズル洞門	穴見浜西方のハナズル洞門は、角礫岩の岬の先端にできた離水洞門で形が牛の鼻蔓を通す穴に似ていることから名付けられている。角礫岩にできた洞門は洞門の底が 3~5m、天井 9~10m の楕円形である。洞門西側には離水ポットホールもみられる。
	79	蓬萊断崖	穴見海岸から東に行くと屏風を立てたような絶壁が海岸まで迫り、この風景が中国の蓬萊山に似ていることから、この名前が付けられたといわれる。昔は往来の難所として、岩盤をマンホール型に削って道路が付けられていた。さらにテトラポットを置き、山が大きく削られていた道路も、現在では穴見トンネルの開通によって通行することはなくなった。
	80	大池島のポットホール	居組湾西 500mにある大池島は、八鹿累層諸寄安山岩からなり、中央部の高さは約 7mの小島である。島の南西下部にあるポットホールは直径約 5m、水深 5mのほぼ円形で、周囲は現海面上 6~3mまで浸食された壁面がある。底にはわずかに小礫と砂が堆積して浸食は停止している。このポットホールは少なくとも現海面上 3mの高さから浸作用が始まったことが分かる。
81	居組洞門	流紋岩層の不動島北側にある洞門。南に 20 度傾いた節理に沿ってできている。幅 5m、高さ 8m、奥行き 5mの洞門で、海蝕により島に分離される直前の地形を示している。南側は水深 1.8m、北側は 0mで底面には人頭大~こぶし大の円礫があり、満潮時や波浪時のみ波の影響を受けている。	

■ 文化的景観

分類	番号	名称	概要
生活・生業・風土により形成された景観地	82	居組港（伊含浦）	鎌倉時代の弘安 8 年（1285）に書かれた『但馬国太田文』に「伊含浦」と見える。天正 15 年（1587）には丹後の細川幽斎は、秀吉の九州征伐に従う途中、居組浦に一夜を明かし、「主従は たびにしあれば 里の名の 居くみにしたる 仮のやどかな」の一首を残している。江戸時代には廻漕業が盛んで、居組港の不動島と亀山の間の入江がその泊地で、現在も和船繫留杭跡が残る。

■ 伝統的建造物群

分類	番号	名称	概要
宿場町・ 城下町・ 農漁村等	83	居組集落	崎や鼻、河口をたくみに利用して漁港・漁村集落がつくられている。『但馬ランドスケープ広域計画報告書』では主要な漁村の一つとしてあげられている。

自治会の区域における歴史文化・文化財の記録作成等の取組

- ・『居組麒麟獅子舞』（平成 27 年 3 月、居組大歳神社・居組麒麟獅子舞保存会編集・発行）

